

現職日本語教師研修のための TV 番組を使用した 聴解教材開発

高橋 純子

要 旨

韓国人日本語教師を対象にした日本語研修プログラムでの使用目的で TV 番組クローズアップ現代「若者言葉 - ら抜き言葉まかり通る - (NHK)」を使用し、聴解教材を作成した。本稿では対象学習者の特徴、授業形態および学習者の置かれた学習環境、使用テレビ番組の構成、などを紹介し、本教材の構成、学習目標、相互学習に基づいた授業の進め方、指導上の留意点など制作者の意図を示す。

【キーワード】聴解教材 韓国人日本語教師 学習目標 学習環境 相互学習

The Production of a Listening Comprehension Worksheet for Korean Teachers of Japanese

TAKAHASHI Junko

【Abstract】 This is a report concerning the production of a listening comprehension worksheet based on a TV program for a group of Korean teachers of Japanese. The characteristics of the learners, their learning environment, learning objectives, class procedures and the intention of the author are presented. Moreover, the evaluation of these teachers' proficiency is discussed.

【Keywords】 listening comprehension worksheet, Korean teachers of Japanese, learning objectives, learning environment

1. はじめに

本教材は、3つのユニットと特集からなる京畿道外国語教育研修院日本語教師研修プログラムの中の第1ユニット「変化する日本語」において2回の授業で使用することを想定し作成したものである。NHK制作のテレビ番組クローズアップ現代「若者言葉 ら抜き言葉まかり通る」(1996年1月22日放送 25分)を素材として、ワークシートを作成し、授業を組み立てていく。聴解授業の素材探しは一ター朝にはいかない。なんと言っても、常日頃から候補作品をビデオテープやDVDなどに撮り溜めておかなければならない。あるテーマに合った内容の素材に即巡り合えるというものではない。以前に視聴したテレビ番組が適当ではないかと思い出しても、手元に録画したものがなければどうしようもない。反対に、いつか使用するかもしれないと撮り溜めておいた録音・録画資料も使用する機を逸して潰さざるを得ないこともある。そういう意味では「クローズアップ現代 若者言葉 ら抜き言葉まかり通る」(NHK)の録画が手に入ったことは幸運であった。

この番組は、放送されてからもう既に数年たっているが、そこにかえていくつかのメリットがある。それは、「ら抜き言葉」についての知識、その歴史の変遷や若者言葉の一般的傾向に関する知識が得られるだけでなく、この番組で紹介された若者言葉のここ数年間の普及ぶりを振り返り、実証することができるのだ。今回この番組を教材として使用するにあたって、プラスの側面が大いにあったと考える。

本教材の呼称として聴解教材と表記しているが、1つのテレビ番組を教材化し、その視聴覚教材を使用して、「聞く」はもとより、「話す」「書く」「読む」と言語習得にかかわる技能を駆使し、多元的授業を展開していくことを想定している。その詳細を本稿で説明していく。

2. 学習者と学習環境

2.1 対象学習者

韓国語母語話者で日本語教育に携わっている成人が本教材を使用する。その学習者群にはいくつかの際立った特色がある。学習者の年齢は、40代から50代と言う。もう既にかなりの時間を日本語学習に費やしてきているはずである。しかし、実際の日本語環境での生活体験はさほどなく、高校、大学など教育機関での日本語授業を通して日本語を習得してきた者が多いようだ。大雑把に分類すると、耳で聞いて理解するよりも、目で見えて理解する能力にたけているタイプの学習者群である、という情報を教材作成の前提として得た。「聞く」よりも「読む」方が得意というわけである。見方を変えて言えば、音から入る情報を取り入れるのは苦手とも言える。

さらに、各自既にそれぞれの学習法を確立しており、自律的に学習を進めていくことができ、授業外でもよく予習、復習をする習慣が身につけている真面目によく勉強する学習者集団であると聞いた。しかし、年齢的なことを考えると外国にあって、様々なメディア、音楽、

映画などから本トピックである若者言葉や若者文化に触れる機会もさほどないことが予想される。また、教師という立場上、日本語で話し掛けられる場合も、それに答える場合も若者言葉ではなく、改まった日本語を使用するであろうから、日本語のくだけた表現、発音には遠くなっていると推察できる。

比較的高い年齢層、「聞く」よりは「読んで」情報をとる方が確実、くだけた表現にはあまり馴染みがない、勉強に意欲的といった特徴がある。

2.2 授業形態と学習環境

本教材を使用した授業は、3つのユニット(各ユニット90分授業が8コマ)と<特集>(90分授業3コマ)の4週における日本語研修プログラムの第1ユニット「変化する日本語」で実施される予定である。

90分授業2回分が本教材を使用した授業に割り当てられるが、授業では最初の15~20分は聞き取りの練習に当てられているため、実質1コマ75分以下となる。2日に渡って75分授業2回分を教材制作の目安とした。

学習者は、研修所に合宿し教室と住居が接近した環境にある。本教材は、1回目の授業に使用される予定で、授業前に予習指示も可能な状況にあるという。学習者は、コンピュータを自由に頻繁に使用できる環境にあるという。つまり、個人で教材となるテレビ番組の視聴が可能で、授業時間外にも何回でも納得のいくまで予習、復習できるということであった。聞くことにあまり慣れていない学習者にとっては理想的な環境が整っていると言える。加えて、学習者は勉強の習慣がついており、熱心に取り組む集団である。

全40数名の学習者は4つのクラスに分けられる。クラス分けは、能力別ではなく、日本語力の高い学習者、低い学習者が満遍なく1クラスに配置されると言う。

3. テレビ番組「クローズアップ現代 若者言葉 ら抜き言葉まかり通る」の構成と特徴

素材となるTV番組は、内容的に前半、後半にすっきり分かれる。前半は最近の日本語の変化の流れをら抜き言葉を中心に紹介し、それに対する公的対策、年配者の反応を取り上げ、後半は若者言葉の具体例を専門家の解説を得て詳細に検証している。以下、番組の主な流れを紹介する。

- 1) 問題提起: 最近の日本語が聞きにくい、分かりにくくなったという声を耳にすることが多くなった。その原因はなんだろうか。
- 2) ら抜き言葉の使われている例とその使用に対する反応
- 3) ら抜き言葉への公的対応の紹介
- 4) ら抜き言葉誕生の歴史的背景と文法的解説
- 5) 解説者の意見

- 6) 世代差(語彙、会話のスピード)
- 7) 解説者の意見
- 8) 若者言葉の例と専門家による解説(1) 語彙・表現を中心に
(「超 ~」「激 ~」「~ 系」「~ 入っている」など)
- 9) 若者言葉の例と専門家による解説(2) アクセントを中心に
(頭高アクセントと平板アクセントの使い分け)
- 10) 解説者によるまとめ

問題提起(1)、具体例の紹介(2)、解説者の意見(3)、という流れが番組の小テーマごとに繰り返される形式になっている。内容的にも長さの点からも 7) までが前半、8) 以降が後半に分かれる。前半約 15 分を授業で扱うことにした。後半(10 分)も若者言葉の詳細な具体的例、視聴覚教材だからこそ扱えるアクセントの使い分けなど興味深い内容であったが、時間的制約を考えると授業時間内で扱うことはできないであろうと判断し、自習用とし、ワークシートを作成した。

4. 学習目標

75 分の 2 回の授業の目標を教材の内容をふまえ、以下のように設定した。

<第 1 回目の授業>

- (1) 「ら抜き言葉」についての一般的知識を共有する。
- (2) 番組ゲスト、評論家森本哲朗を始めとする人々の見方を把握する。
- (3) 聞き取ったキーワードを使って説明することができる。
- (4) ワークシートの質問項目で示された要点が聞けるようになる。

<第 2 回目の授業>

- (1) 日本語の世代差について知る。
- (2) 細部にとらわれず、要点を押さえて聞き取れるようになる。
- (3) わからない言葉、表現などは、その周辺、あるいは全体の流れから推察するようつとめる。
- (4) 発言者の意見の要点を押さえられるようになる。

5. 教材の特徴と授業の進め方

5.1 授業用ワークシートと自習用ワークシートの狙い

授業では前述のようにテレビ番組の前半 15 分のみ扱い、残り 10 分は授業時間内では扱う余裕がないであろうという予測で、さらに学習を進めたい学習者が自習できるようワークシートを作成した。その際、授業使用の教材と自習用教材の差別化をほどこした。授業用教材

は、各学習者の有している知識の共有を図り、話し合いなどを通じた相互学習が機能するよう工夫をし、聞き取れたことを学習者同士で確認していくような活動を中心とした。ビデオ視聴の前に、学習者同士の話し合いを通してそれぞれの経験、知識を交換しあう活動がある。質問形式は、記述式（授業では口頭で答えることになる）を多くした。

自習用教材は、選択肢問題、正誤問題などを多くし、質問項目を読んでいくことが聴解の助けになるよう工夫した。穴埋めの聞き取り問題は入れるべき言葉を提示し、そこから選んでいくというような形式にした。

【授業用教材】

特徴 1：授業に入る前の話し合い活動

特徴 2：記述式質問が多い。


特徴 3：ワークシートにいくつかキーワードが並べられており、あえて語彙表を参照せず、どのくらい聞き取れるか挑戦してみることができる。

【自習用教材】

特徴 1：授業前の話し合い活動はない

特徴 2：正誤問題

特徴 3：選択式穴埋め聞き取り問題

授業用、自習用ともに語彙表を参照できるようになっている。語彙表の使用に関しては、まずは見ないで挑戦してみる、という方針であったが、時間的な制約もあり、学習者の様子を見てそれぞれの学習者の判断で予習として授業前に参照しておいてもよいということにした。尚、 444 の印は、ワークシートの質問と対応する箇所の単語が語彙表のどこに示されているかを表示している。

5.2 授業用ワークシートの質問項目の狙いと視聴の仕方

1 回目の授業と 2 回目では視聴の仕方が異なる。1 回目は、できるだけ丁寧に聞いていく。新しいテーマに入る第一歩で躓いてしまうと、その後の学習に警戒心を持ってしまいかねない。番組出演者の話し方に聞き慣れるという目的もあり、ゆっくり丁寧に視聴する。番組の主旨を明らかにし、本番組の問題提起、ら抜き言葉の基礎知識をしっかりと把握し、始めの段階でつまずきのないよう確認しながら進める。

2 回目はテーマも分り、番組の進行係のアナウンサーやゲストの評論家の日本語も聞き慣れたことでもあり、1 回目に比べるとかなり長い量を要点のみを押さえた情報取りの聞き方をしていく。以下、具体的例をあげ、ワークシートの各設問の狙いを示す。

第1回目の授業

見る前に

グループで話し合ってみてください。

1. 「ら抜き言葉」を知っていますか。

例：食べる 食べられる ()

() 聞いたことがある、よく聞く。自分では使っていない。

() 聞いたことがある、そして時々使っている。

() 聞いたことも使ったこともない。

() その他

2. 「ら抜き言葉」について、どんな考えを持っていますか。

() 言葉の乱れだ。

() 違和感を感じる。

() 別にかまわない。

() 積極的に使った方がよい。

() その他

3. タイトルの「ら抜き言葉まかり通る」というのはどんな意味でしょう。

「ら抜き言葉」を始めとする最近の日本語の変化について一般的知識を共有し、共通認識を確立するという目的の活動である。質問項目に「違和感を感じる」という選択肢があるが、これは番組の中で使用される語彙をあえて選んで、視聴の助けとしてある。「まかり通る」という言葉の意味に注意を向けさせ、「まかり通る」ものは本来どんな性格のものであるかを理解し、このタイトルをつけた番組制作者のら抜き言葉に対する姿勢を推察する。つまり、(ら抜き言葉は)不当ではあるが、本来は正しくないのだが、それが多くの人に受け入れられている、という状況で「まかり通る」という語彙が選ばれる。そこに「ら抜き言葉は本来は正しくないのだが、今や多くの人が使っている」という含みをタイトルから理解してもらいたいところだ。

見てみよう1

どのくらい聞き取れるか挑戦してみましょう。1回目で何が聞き取れたか情報交換をし、話し合ってください。その後必要なら2~3回聞いてください。



4 4 4 イントロダクション

次の言葉の読み方と意味を調べましょう。

単語：国語審議会

答申

知られざる () 知られていない)

見えざる (見えない)

探る

すれ違う

言葉の言い回し

表現：ちなみに(参考までに、参考の例として)

例 ちなみに NHK では放送の場ではら抜き言葉は使わないことになっています。

1 回聞いてから、わかったことをグループで話し合ってみてください。

問1 若者の言葉に対してどんな感想を持っている人が増えてきていますか。

問2 「ら抜き言葉」はだれが主に使っていますか。

問3 それに対してどんな反応がありますか。

問4 「ら抜き言葉」とは何ですか。説明してください。

ここに示したキーワードだけでどのくらい聞き取れるか、すべてが聞き取れなくても推察力でどのくらい理解できるか挑戦してもらいたいという意図の活動である。学習者がそれぞれ聞き取った情報を持ち寄り、共同作業でワークシートの質問に答えていく。聞き取った語彙表現を引用して話すという練習でもある。1回目の視聴後、どのくらい聞き取れたのか、どこがあやふやなのかを明確にし、その後、学習者のレベルに応じ、答え合わせをしながら何回か聞いていく。

聞き取り1

詳細な聴解



4 4 4 インタロダクション

ビデオ(テープ)を聞いて()の中に適当な言葉を入れて下さい。

国谷裕子：こんばんはクローズアップ現代です。え、今夜は若者の言葉がテーマです。

()ら抜き言葉の使用は認められないという()を出した国語審議会。
しかし、ら抜き言葉は若い世代に広く使われていることから()を呼んでいます。
()大きな違いが生まれている日本語、その()変化を若者の言葉から()いきます。

えー、娘や息子、孫や若い社員と話をしても、どうも会話が()しまい、
同じ日本語を話しているのに()、こんな実感をお持ちの方が増えている
のではないのでしょうか。言葉は時代や社会を写し出す()と言われていますが、

え、言葉の()や意味が世代によって大きく違ってきています。
 その()が「ら抜き言葉」です。
 え、こちらをご覧くださいたいんですが、この「見られる」の「ら」を取って、「見れる」、
 あるいは「食べられる」のやはり「ら」を取って「食べれる」など「ら」を取った表現を
 「ら抜き言葉」と言いまして、若い世代は今()そして()
 使っています。こういう言い方は、()だ、()という方も
 いらっしゃるのではないのでしょうか。で、まずは、この若者のら抜き言葉を見てまいりますが、
 ()NHKでは放送の場では「ら抜き言葉」は使わない()

この部分は既に聞いたところであるが、読んで確認をとることで、聞くことが苦手の学習者に安心感をあたえようという意図がこめられている。聞き取りが弱い学習者の中にはスクリプトを要求する者が多い。聞き取りのための語彙力が不足している場合は、何回も聞けばわかって来ると言うわけではなく、理解のためにはやはり語彙、文法、表現力、聞き慣れていることなど様々な要素、技能がかかわる。聞き取りが苦手な学習者はわからないことで欲求不満に陥ることもある。そのような不都合を解消する1つの手段として、穴埋め聞き取り問題を配置した。この部分を読むことで遅れ気味の学習者の理解を助けるという目的と、今後の番組内容理解の基礎知識の確認も兼ねる。

見てみよう2



4 4 4 CMの世界

問5 どんな「ら抜き言葉」が使われていますか。

問6 CM制作者があえて「ら抜き言葉」を採用した理由はなんですか。

- ア()耳障りだから。
- イ()耳触りがいいから。
- ウ()意味がはっきり伝わるから。
- エ()時代にあってるから。
- オ()その他



4 4 4 ら抜き言葉

問7 次の()を埋めて下さい。

- 「見れる」だけを使う人 ()割
- 「見れる・見られる」両方使う人 ()割
- 「見られる」だけを使う人 ()割



4 4 4 ら抜き言葉の変遷 お茶の水女子大附属中学校→小林多喜二

問 8 次の()を埋めて下さい。(ら抜き言葉の変遷について確認)

1. 「ら抜き言葉」は()の方言だった。
2. ()時代には()地方、()に既に広がっていた。
3. 昭和初期の()育ちの小林多喜二の小説「蟹工船」にら抜き言葉が使われている。
4. 現在、()全国に広がっている。
5. ら抜き言葉が広がったのは日本語の()が関係している。

問 9 なぜ「ら」を抜くのですか。

問 6 の選択肢

ア()耳障りだから。

イ()耳触りがいいから。

は、番組の中で「耳触りがいい」という最近の日本語の変化として取り上げられている表現が使われていたため、それをあえて取り出した。本来の使い方である「耳障り」と対比して教師の説明を加えてもらいたいところである。それを強調するため下線を引いた。

問 8 は、番組の解説とは順番が多少ことなる。しかし、この設問の答えを埋めていくことによって、やや複雑に組み立てられた番組での解説が時系列に沿って整理された形となる。

問 9 はこの聞き取り部分のまとめともなる重要なところだ。まずは学習者が自力でどのくらい理解できたか試してみてから、次の穴埋め聞き取り問題で目で確認する。

聞き取り 2



4 4 4 ナレーション

ビデオ(テープ)を聞いて()の中に適当な言葉を入れて下さい。
(「見られる」の意味確認)

ナレーション：文法的に正しい「見られる」は、主に()の意味で使われています。
人から()という意味の() ()という意味の()
見ることができるという意味の()です。
()「見れる」というら抜き言葉は()に使われます。
「ら」を抜くことで、()できるのです。

問 10 国語審議会はどんな場でのら抜き言葉を認めないと答申しましたか。



4 4 4 評論家 森本哲郎

問 11 「歯止めをかける」「目くじらを立てる」という言葉はどんな意味でしょうか。文脈からその意味を考えて下さい。

歯止めをかける：

目くじらを立てる：

問 12 森本氏のら抜き言葉に対する見方を「乱れ」「変化」という言葉を使って説明してください。 **チャレンジ！**

問 13 今日視聴した内容について意見交換をしてください。 **チャレンジ！**

問 11 は、キーワードから内容を推察するのと反対に、ゲストの評論家の言葉の変化に対する姿勢を理解し、その立場を前提条件として「歯止めをかける」「目くじらをたてる」という表現の意味を推察しようというものである。未知の表現であっても、発言者の立場を考慮することでどんな意味がおぼろげにわかってくるはずだ。始めはわからなくとも話しの前後のつじつまを合わせて行く過程で選択肢は狭められる。学習者同士での答え確認過程で、推察力のすぐれた学生の聞き取りのストラテジーを他の学習者が学ぶことができるのが理想である。問 12、13 チャレンジ！は、学習者の到達度により時間的に余裕がなければ授業では扱わない項目である。両者とも口頭表現力の養成を目的とし、問 11 はキーワードを提示し要約する活動、問 13 は番組の内容を引用しつつ自分の考えを述べる活動になる。以上番組全体の前半のそのまた約半分 6 分間をかなり詳細に聞いていくのが第 1 回目の授業になる。

第 2 回目の授業は、1 回目の授業とはことなり、かなり長い部分を一気に要点を押さえ聞いていく。世代間における言葉の違いという幅の広いテーマで、日本語の問題だけでなく、自国語の韓国語にも共通するものである。今回もビデオ視聴の前に以下のような話し合う活動を通して、共通認識を築き上げる。

見る前に

考えてみよう

1. 言葉において世代間で異なる要素にはどんなものがありますか

例：話すスピード

発音（例 わからん わかんねえ...）

2. 次の言葉を知っていますか。

お払い箱

めっそもない

虎の巻

集団就職

ももひき

こしゃくな

ひもじい

花嫁修業

3. 若者にはもうその意味が分からなくなってしまった古い言葉、表現が自国語にもありますか。それはなぜでしょうか。

考えてみようの2は、番組の中で使われる表現である。今ではほとんど使われなくなった表現として紹介される。これらの単語は語彙表にのせておいても調べる術がないかもしれない。また「集団就職」「花嫁修業」など漢字から意味がわかったとしても、その社会的背景知識があって初めて真の理解になる。そのため、あえて語彙表にはのせず、教室での話し合いの話題とした。**考えてみようの1と3**は、日本語に限らず普遍的に話し合われる話題であろう。語学教師である学習者の意見を表出できる場になることを期待した設問である。

見てみよう1



4 4 4 梅香女子大学 米川明彦助教授

- 問1 米川助教授がした2つのことは何ですか。

(1)


(2)

- 問2 次の言葉の意味は何でしたか。


(1) わけわかめ

(2) シキラー

2つの設問とも耳からの情報のみではなく、画面に活字が現れる。問2は特に、「～とは　のことである」という定義文の聞き取りになる。



見よう2



4 4 4 世代間の違い

問3 若者と年配者の言葉に関する違いをメモを取りながら聞いてください。
聞き取ったことをグループで確認してください。

ここからかなり長い部分をメモを取りながら聞いていく。教師は、世代によって異なる項目のみを追って聞いていくよう指示をする。1回目の授業の聞き方とは大きく異なるところである。1回目の視聴後、学習者同士での答え合わせが終わった後、次の表を埋めていく。1回目で全ての項目をメモできた学習者もいるかもしれない。いくつか聞き逃してしまった者もいるかもしれない。その差を均等化して授業を進めていくという目的がある。また、表に書かれた項目をキーワードに聞いていくことで、理解の助けになるであろう。


問4 次の表を埋めて下さい。(2回目あるいは3回目の視聴で確認)

項 目	若 者	年 配 者
歌のさわり		
世間ずれ		
スピード		
おもむろに		
気の置けない人		
公私混同		

2回目以降の視聴で、この表を使い当該場面ごとに区切ってビデオ視聴し、確認をしていく。時間的にはおそらくここまで辿り着くのも駆け足ではないかと予想される。ここまでは、解説の聞き取りであったが、次に意見、考えの要点を聞くというチャレンジ課題に入る。チャレンジ課題は、前述したように学習者のレベル、授業の時間配分に余裕のある場合に教室で扱うものである。

チャレンジ

見よう3

 444 評論家 森本哲郎

背景知識 次の言葉を知っていますか。

1. 一を聞いて十を知る
2. あうんの呼吸
3. つかー

問5 次の言葉はどのように続くだと思いますか。
国谷：同じ日本語ですから、通じると思って話していても、これだけ言葉の意味が違ってきますと大きな誤解が（...）。

森本：そうですね。ええ、だから非常に大きな誤解が世代間で起こってくるという可能性がありますね。

問6 森本氏は言葉には2つの機能があると言っています。
それは何ですか。

問7 その2つの機能は、日本語と欧米語とではどのように異なりますか。

問8 森本には言葉が伝わりにくくなっている原因をどのように捉えていますか。

問9 今日視聴した内容について意見交換をしてください。

番組で使用される表現1「一を聞いて十を知る」2「あうんの呼吸」3「つかー」の共通理解を始めにはかり、質問事項がゲストの評論家の意見を理解するのを助けるよう機能することを狙っている。特徴的なのは、問5である。ここで授業担当者がビデオ操作をして、進行役の国谷と評論家森本の「あうんの呼吸」「つかー」の様子を提示することで成り立つ設問である。進行役の国谷の言葉が終わらないうちに評論家森本は答えている。このようなやりとりは他の場面でも見られたのだが、そこだけを無理に強調しても番組の流れから不自然だが、ここで取り上げるのにはうってつけであると考えられる。

質問9は、番組全体についてのコメントを求めるものである。ここまでは25分の番組の前半15分ではあるが、ある程度まとまった内容になっている。学習者は視聴した番組について自分なりの感想、意見を表明したいはずだと考える。その場がこの設問9である。ここまで2回目の授業でたどり着けるかははなはだ疑わしいが、以上が学習者間の相互学習を想定した教室使用のワークシートの詳細とその扱い方である。

5.3 自習用ワークシートの質問項目の狙いと視聴の仕方

主な特徴は、正誤問題の質問項目を読むことが聴解の理解を助けるような仕組みになっていることである。これは「聞く」より「読む」方が能力が高いという学習者の特徴を考慮しただけではなく、自習という他者からのヒントを得られない状況で、自力で内容を理解していくための手助けの1つの方法である。このタイプは2問用意した。

問1 次の文で正しいものに を書いてください。

ア() 「超むか」は「激むか」より腹の立つ度合いが大きい。
超むか > 激むか

イ() 「激むか」は「超むか」より腹の立つ度合いが大きい。
超むか < 激むか

ウ() 超、激という言葉は形容詞として使われている。

エ() 超、激という言葉は副詞として使われている。

オ() 平安時代の「超」は「いと」で、激は「いといと」に当たる。

カ() 「激」「超」と同じように使われることばに「めっちゃ」がある。

キ() 程度の大きさを表す言葉は長い間使っているうちにどんどん激しさを増してくる。

ク() 程度の大きさを表す言葉は長い間使っているうちにだんだん弱くなっていく。

ケ() 「すごく」という副詞は幽霊に出会った時に使う。

コ() 「すごく」という副詞は今ではいろいろな場合に使うが、本来は幽霊に出会った時などのような恐ろしさを表す場面で使ったものだ。

問9 次の文で正しいものに を書いてください。

ア() カレシ(頭高)のほうがカレシ(平板)より親しい関係の人に使う。

イ() カレシ(平板)のほうがカレシ(頭高)より親しい関係の人に使う。

ウ() 室町時代までは4つのアクセントがあった。

エ() 平安時代には同じ音の言葉でもアクセントの違いで意味が違っていた。

オ() 現在の東京アクセントは2つの型がある。

カ() 東北では1つのアクセントの型しかない。

キ() 東北の一部の地方にはアクセントの型が1つしかない。

ク() 日本語のアクセントはどんどん減っていく傾向だ。

ケ() アクセントを使い分けることによって洗練されなくなった。

コ() アクセントを使い分けることで洗練されてきている。

正誤の組みにすることで、学習者の聴解の焦点が絞り込まれる。学習者にとっての新しい語彙もこの質問文に入っている。問4のオ、カにいたってはそこに聞き取るべき情報が入っている。質問に正しく答えられるか否かをチェックする機能の問題ではないため、ある学習者にとっては、簡単すぎる質問になるかもしれないが、あくまでも理解を手助けするもので

あるから構わないと考える。

穴埋め聞き取り問題は、授業用ワークシートでは、学習者が聞き取った単語、表現を書き入れている形式をとったが、自習用ワークシートでは答えを選択肢から選ぶ形式にした。次の例がそれである。

問8 ビデオ(テープ)を聞いて()の中に の中から選んで適当な言葉を入れて下さい。

2回同じ言葉を使うこともあります。

負けず嫌い	遠回し	断定を避けてぼかす	噂	ぼかす
私はどうかと思います	気づかせて	伝統的	婉曲的な表	

小矢野教授：自分が()っていうのは、たぶん彼女は知ってることだと思うんですね。それを言うのに、自分が負けず嫌いだっていう()だという。その噂だという形にしてしまう。これは、はっきり、あのう、()という()っていうのが日本語には多くありまして、えー、あの、はっきり、例えば、悪いことは悪いって言わないで、よくない、と、え、ちょっと()んですね。さらに「良くない」を()という言い方にするとかね。で、何となく相手にそれを()という意味で、こう()に言う。あるいは、()という言い方がどうも日本語の()な言い方、と言ってもいいと思うんですね。

問13 ビデオ(テープ)を聞いて()の中に の中から選んで適当な言葉を入れて下さい。

皮肉	情報化社会	肝心の	無力化	伝達の機械
落とし穴	逆説的			

森本：そうですね。
だから私は、今回このような現象を見ると非常に何か()な皮肉って言いますかね、何かそれをつきつけられた気がしますね。ええ、()ですね、携帯電話でも何でも、どんどんどんどん進んでいくにもかかわらず、使われている()言葉というものの機能がどんどん()していくということはですね、これ、ま、()なんて言われてますけれども、その全く、この、()と言いましょか、()としか言いようがない気がいたしますね。

その他、質問文の中で、ある言葉の意味を与えておき、その意味に該当する言葉を聞き取るというタイプ(質問2)や、質問文の中で説明を加えるタイプ(質問3)、キーワードを聞き取るタイプ(質問7、質問12)も設けた。

問2 「～似ている」という意味の若者表現は何ですか。

問3 「フェミ男系」の男性はどんなタイプの男性だと思いますか。

問7 日本語の特徴を表すキーワードを4つ挙げて下さい。

問12 森本は若者言葉が広がっていくことを楽観的に見えていますか。悲観的に見えていますか。森本の考えを表す言葉を2つ書いて下さい。

以下は、内容理解にあたり、どこに注意を向けてきけばいいかを示唆する質問項目である。

- | | |
|-----|-------------------------------------|
| 問4 | なぜ「～入っている」や「～系」という表現が生まれたのですか。 |
| 問5 | 一般的に「～らしい」「～という噂」という表現はどんな場合に使いますか。 |
| 問6 | 若者たちは「～らしい」「～という噂」をどんな場面で使っていますか。 |
| 問10 | 「不易」「流行」はなんですか。 |
| 問11 | 森本によると言語において「不易」の部分は何ですか。 |

6 今後の課題

本教材制作者と授業者は同一人物ではない。留学生センターでの聴解授業で使用するような目目の学習者に合わせてという条件で作成したものではない。限られた情報をもとに全て想定の下に作成したものである。授業者と制作者が同一ということであると、授業で融通が利くというよい面もあるが、それがまた反対に客観性に欠けるという面も合わせ持つ。制作者の意図、想定授業の形態は上述の通りであるが、授業担当者の報告、学習者の達成度とその反応など、集められるデータを分析し、その結果をあらためて報告する予定である。